

概要版

第3期高島市総合戦略

【デジタル田園都市構想総合戦略】



滋賀県高島市

令和7年(2025年)1月策定

2025 ▶ 2029

第2期高島市総合戦略の検証

- ✓ 出生数が目標値を50人下回った。
- ✓ R4は合併後初の転入超過（+3人）、R5は再び転出超過（▲41人）
⇒ 200人以上の転出超過が続いていたが改善傾向
- ✓ 20代の転出超過が目立つ
⇒ 進学や就職等で転出した若者が戻ってきたいと思えるまちづくりが必要

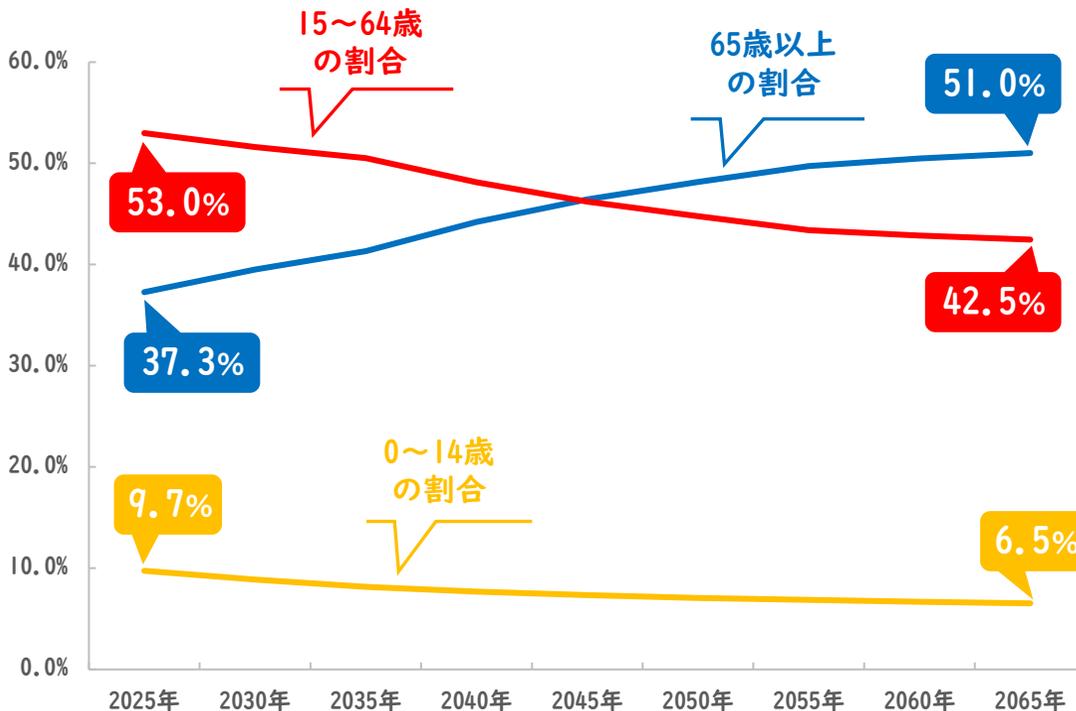
KPI (重要業績評価指数)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)
【基本目標1】 就業者数	(9,030人) 9,001人	(9,050人) 9,154人	(9,100人) 9,267人	(9,400人) 9,104人
【基本目標2】 社会増減数	(▲240人) ▲264人	(▲180人) ▲162人	(▲120人) +3人	(+50人) ▲41人
【基本目標3】 出生数	(300人) 248人	(300人) 244人	(300人) 223人	(250人) 200人
【基本目標4】 デジタルによる生活の幸福度	—	—	—	(60.0%) 12.2%

上段：目標値 下段：実績値

人口ビジョン（現状と傾向）

- 1 総人口は減少傾向にあり、2065年に2万人を下回る見込み
- 2 今後も少子高齢化が拡大し、2065年に高齢化率が50%を超える見込み
- 3 生産年齢人口(15~64歳)の割合が減少、特に20代の転出超過が顕著

👁 年代別人口割合の現状推移



👁 10歳階級別の純移動数（地域別）



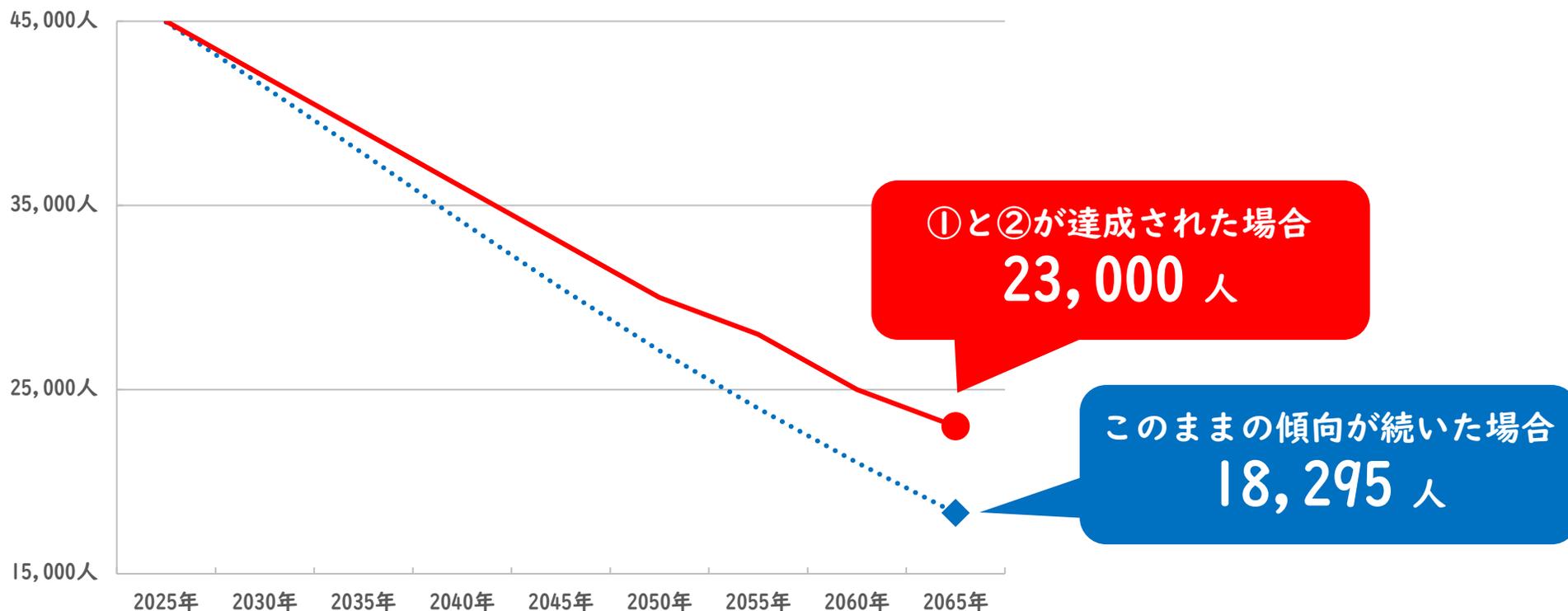
人口ビジョン（総人口の将来展望）

① 合計特殊出生率 ▶ 1.60※まで向上

② 流入数（社会増） ▶ 毎年+70人

※ 出生動向基本調査（2021年）を基に推定した希望出生率

☞ 総人口の将来展望（シミュレーション）





地域ビジョン

住みたい、住み続けたいまち

高島市に誇りが持てるまち

計画期間

令和7年度 ▶ 令和11年度

H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11

第2次高島市総合計画

基本構想(10年間)

基本計画【前期】(5年)

基本計画【後期】(5年)

第3期高島市総合戦略

第1期総合戦略

第2期総合戦略

計画期間(5年間)

基本体系

人口ビジョン
(定量的目標)

2065年の人口目標

2.3 万人



地域ビジョン
(定性的目標)

住みたい、住み続けたいまち

高島市に誇りが持てるまち

基本目標と施策

基本目標 1
【雇用・産業振興】

KGI：就業者数

施策1-1「安心して働けるまちづくり」
施策1-2「生産性向上・稼げるまちづくり」

基本目標 2
【人の流れをつくる】

KGI：社会増減数

施策2-1「新しい人の流れの創出」
施策2-2「移住定住の促進」

基本目標 3
【結婚・出産・子育て】

KGI①：18歳未満人口の割合

KGI②：将来高島市に住みたい、いつか住みたい
と回答した高校2年生の割合

施策3-1「子育てしやすいまちづくり」
施策3-2「人に優しいまちづくり」

基本目標 4
【魅力的な地域づくり】

KGI①：暮らしにおける幸福度

KGI②：デジタルにより生活が便利に感じる割合

施策4-1「健康まちづくり」
施策4-2「安全・安心・快適まちづくり」

基本目標 5
【新しい「働き方」「暮らし方」「学び方」の実現】

KGI：関係人口数

施策5-1「リビング・シフト」

稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

- ✓ 若年層を中心とした転出超過により、市内事業所の人員確保が困難
- ✓ 転出者へアンケートを実施した結果、転出理由のほとんどが「仕事の都合」と回答
- ✓ 若年層の流出を抑制するためには、「安心して働ける環境づくり」「稼げる産業を育てること」が必要

KGI
(達成目標)

基準値

目標値

就業者数※

9,104人

9,500人

※ 雇用保険被保険者数

1-1 安心して働けるまちづくり

高島市の地域特性を活かした産業の維持・振興のため、新規就農の促進や地域経済の循環および地域問題の解決に資する事業の創出、企業誘致による雇用創出を図り、希望に合わせた仕事ができる環境づくりを図ります。

｜ KPI(中間目標) ｜

新規立地増設企業数、創業件数、就職件数

｜ 主な取組 ｜

- 企業誘致
- 地域雇用活性化
- 企業の魅力発信
- 創業支援体制の充実と創業機運の醸成 など

1-2 生産性向上・稼げるまちづくり

企業の生産性向上や特産品、農林水産業の付加価値を高め、国内外での販路拡大につなげ、また地域資源を活かした観光業を振興し、所得の向上を目指して、稼げるまちづくりを推進します。

｜ KPI(中間目標) ｜

市内付加価値額、年間商品販売額

｜ 主な取組 ｜

- 企業活動支援
- デジタルを活用した農林水産業
- 地域資源を活かした観光誘客による外貨の獲得
- 発酵のまちづくり など

高島とのつながりを築き、高島への新しい人の流れをつくる

- ✓ 令和6年3月に「たかしま観光ビジョン」を策定
- ✓ 社会増減は令和元年の387人減をピークに、改善傾向
- ✓ 令和4年に市制施行後初めての転入超過（+3人）
- ✓ 子育て支援施策や移住定住の促進により、さらなる転出超過の抑制が必要

2-1 新しい人の流れの創出

当市が誇る自然、景観、歴史文化をしっかりと守り継ぎ、価値を磨き上げるとともに、地域で暮らす人がその魅力を訪れる人に伝え、当市への理解と愛着を持つ「たかしまファン」を創出することで、観光客数や交流人口の増加を目指します。

｜ KPI(中間目標) ｜

観光入込客数、公共交通機関利用者数

｜ 主な取組 ｜

- 価値ある資源を最大限に活かした観光振興
- 時代のニーズを捉えた個性的な取組み
- 公共交通の充実 など

KGI
(達成目標)

基準値
(R2-R5)

目標値
(R7-R11)

社会増減数

-464人



+350人

2-2 移住定住の促進

専任の移住定住コンシェルジュと空家コンシェルジュを配置し、移住に関するプロモーションから相談、空き家や市遊休施設情報の収集・活用および移住後のフォローアップなどをワンストップで行うことにより、移住者の増加と定着率・満足度を向上させます。

｜ KPI(中間目標) ｜

移住定住相談件数、相談を通じた移住件数、移住3年後の定着率

｜ 主な取組 ｜

- 移住相談の充実
- 空家の活用推進
- おためし暮らし
- 住宅改修補助

結婚・出産・子育ての希望をかなえ、人に優しい高島をつくる

- ✓ 出生数は、平成26年以降では、平成29年の326人をピークに減少傾向（令和5年の出生数200人）
- ✓ 県内トップクラスの充実した子育て支援制度を展開
- ✓ 将来高島市で活躍する人材の育成を図る
- ✓ 地域共生社会の実現を目指す

KGI (達成目標)	基準値	目標値
18歳未満人口 の割合	12.5%	15.0%
将来高島市に住みたい、 いつか住みたいと回答 した高校2年生の割合	68.0%	70.0%

3-1 子育てしやすいまちづくり

結婚や子育てに関する不安を取り除く相談体制を構築し、子育て世代の経済的な負担を軽減や様々なニーズに応え、経済的な負担を軽減し、誰もが安心して結婚・出産・子育てができる環境を整えます。また、子どもたちの教育環境を整え、広く学ぶ機会を創出するとともに、郷土愛を育む教育を推進し、市内への定着を図ります。

| KPI(中間目標) |

0~5歳の転入者数、待機児童数

| 主な取組 |

- 子育て世代への経済的負担の軽減
- 子育て環境の充実
- 郷土愛を育むキャリア教育 など

3-2 人に優しいまちづくり

多様な世代、立場、環境にいる人々が自分の希望や生活スタイルに応じた仕事や活動に参加できる環境づくりを行い、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく輝ける高島市を実現します。また、地域での支え合いの構築や、平時からの災害時の支援体制、各種支援の充実を図ります。

| KPI(中間目標) |

通いの場箇所数、個別避難計画作成件数

| 主な取組 |

- 高齢者がいきいきと働ける環境
- 障がい者の雇用促進と生活支援
- 子ども・若者への支援 など

安全で安心して暮らせる魅力的な地域をつくり、幸福感を高める

- ✓ 令和4年度に第2期戦略における当初の目標を達成
- ✓ 令和5年度から新たな目標を設定
 - ⇒ 「デジタルを活用した暮らしへの幸福度」 12.2%
 - ⇒ 「暮らしにおいて幸せと感じる」 78.5%
- ✓ “高島市に住んでいてよかった”と幸福に感じられれる魅力的な地域づくりを目指す

KGI (達成目標)	基準値	目標値
暮らしにおける幸福度	78.5%	85.0%
デジタルにより生活が便利に感じる割合	12.2%	60.0%

4-1 健康まちづくり

市民自らが高島市の資源である水や緑に親しむスポーツや、食育による食生活の改善などを通して健康づくりを行うとともに、本市のスポーツや健康資源の活用により市外からの誘客と地域経済の活性化を図ります。

｜ KPI(中間目標) ｜

1日30分以上の汗をかく運動を週2日以上実施している人、BIWA-TEKUの加入者数

｜ 主な取組 ｜

- 健康づくりへの意識向上
- スポーツツーリズムの振興
- 企業や教育機関等との連携による健康価値の創出

4-2 安全・安心・快適まちづくり

人口減少および高齢化が進む中、地域住民の支え合いによる安全で安心な集落機能の維持を図るため、災害時であってもお互いに助け合う地域づくりを進めます。また、地域資源を大切に守り、高島市の誇りである緑と水を後世に伝えていく取組を進め、安全で安心して快適に暮らせる魅力ある地域を目指します。

｜ KPI(中間目標) ｜

家庭での再生可能エネルギー導入率、地区防災計画の策定率、コンビニ交付の利用率

｜ 主な取組 ｜

- 環境への意識向上と取組
- DXの活用による市民サービスの向上
- 地域コミュニティの活性化 など

新しい「働き方」「暮らし方」「学び方」を実現する

- ✓ コロナ禍を契機に加速した新しい「働き方」「暮らし方」「学び方」の変化を捉えた「高島リビング・シフト構想」を策定（令和4年2月）
- ✓ コロナ禍収束を受け、「高島リビング・シフト構想」の内容を見直し、第3期戦略と統合
- ✓ コロナ禍収束後のリビング・シフトを進める

KGI
(達成目標)

関係人口数※

基準値

369人

目標値

700人

※ 高島縁人登録者数

5-1 リビング・シフト

『コロナ禍をきっかけとして広まった新しい「働き方」「暮らし方」「学び方」』への変化を捉え、本市の地域資源や新たな価値を発信することで、関係人口ひいては多様な世代の誘客・地域活性化に繋がります。また、高島市に継続的に関わり続けることが、それぞれのワーク・ライフ・バランスの実現や幸福感に繋がるというブランドイメージを発信します。

｜ KPI(中間目標) ｜

ふるさと納税リピート率、ワークシフト事業参加人数、包括連携協定締結による取組の数

｜ 主な取組 ｜

- 高島ワークシフト
- 企業・大学等との包括連携
- 関係人口を交えた共創
- ふるさと納税 など

